

(敷島南小) 学校 学校関係者評価書

令和6年2月16日(金)
(敷島南小学校) 学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

実施日： 令和6年2月14日(水) 午後2時40分～4時

会場： 敷島南小学校 多目的室

参加者：

(学校関係者評価委員)

学校評議員： 浅原千恵子・秋山佐和子・堀井昭・森本直美・

岡島一浩(欠席)

P T A代表： 田辺紗希(会長)

(学校側) 五味正年(校長)・堀内貴司(教頭)・伊藤浩史(教務主任)

I 学校側から提案された内容

- ・学校経営方針
- ・学校評価(教職員, 保護者, 児童アンケート)に基づく自己評価書
＜各項目における達成状況と改善策＞
 1. 全体評価について
 2. 学校教育目標・学校経営について
 3. 学校運営について
 4. 学習指導について
 5. 生徒指導について
 6. 地域との連携について
 7. 学校の特色について
 8. 創甲斐教育について
 9. まとめについて

II 協議された主な内容

- ・「一人一台端末の活用について」
- ・「学校メールの活用, ホームページ等における情報発信について」
- ・「特別支援学級の概要と支援体制について」
- ・「宿題について」
- ・「キャリア教育について」
- ・「学校評価の活用について」

＜学校関係者評価書＞

I 全体評価

学校経営方針に基づき, 教育目標の実現に向けて, 一人一人の教職員がそれぞれの職務を遂行してことにより, 今年度の自己評価, 児童用アンケート及び保護者用アンケートの結果は, 肯定的回答の割合が高かった。このことから, 敷島南小学校の総合評価は良好な水準にあると考えられる。

Ⅱ 特徴

【教職員の自己評価】

- ・いくつかの設問において、否定的回答（C・D）が若干名あるものの、全設問において、肯定的回答（A・B）の割合が高い。全教職員による学校教育目標の具現化に向けた取組がなされていると言える。

【児童アンケート】

- ・肯定的回答（A・B）の割合が高く、児童は生き生きと学校生活等を送っていると感じられる。

【保護者アンケート】

- ・全体的にB回答が多いものの、ほとんどの設問において、肯定的回答（A・B）の割合が高い。学校の教育活動に関する設問においては、肯定的回答（A・B）の割合が高く、多くの保護者が、学校の教育活動に対して信頼を寄せているとかがえる。また、家庭の教育活動に関する設問においても肯定的回答（A・B）の割合が高い。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

【一人一台端末の活用について】

- ・児童の学力向上に向けて、今後もICTを有効活用した学習指導を行ってほしい。家庭に持ち帰る機会が今後多くなってくると思うが、持ち帰る時はランドセルがかなり重くなるので、その際は荷物の持ち帰りを考慮してほしい。

【学校メールの活用、ホームページ等における情報発信について】

- ・児童の活動の様子、校長だより等の情報発信が、とても良い。今後も、給食だより（献立表）なども含めて、いろいろな情報を発信してほしい。

【特別支援学級の概要と支援体制について】

- ・数年前に比べて、支援が必要な児童がたくさんいて大変だと思うが、より良い支援体制を構築してほしい。

【宿題について】

- ・宿題になかなか取り組めない児童がいること、親の負担があまり過度にならないことも考慮しながら、宿題の内容、取り組ませ方を検討していくこと、また、どのような意図で宿題に取り組ませるのか、学校、担任の意図を児童、保護者に伝えていくことも必要である。

【キャリア教育について】

- ・キャリア教育とは、職業観、勤労観を育てていくことを含め、社会生活に必要な「生きる力」を培っていくことなので、今後も、継続的に学校教育全体で行っていくことが大切である。

【学校評価の活用について】

- ・昨年度と比べてどうだったか比較して、課題となるところがあれば、しっかり検証していくとよい。

※特記事項

- ・特になし

記載責任者（敷島南小学校 学校関係者評価委員） 氏名：田辺紗希

